

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	16
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	4
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1. 一人ひとりの把握	2
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の	2
見直し	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1. その人らしい暮らしの支援	13
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>41</b>

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 3月 9日 開始 10時00分 ~ 終了 16時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	みつけケアセンターそよ風 _____ (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>星野 久美子</u>
	氏名 <u>高橋 玲子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>横山 美代子</u> ヒアリングを行った職員数 ( 5 )人

**項目番号について**  
外部評価は41項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**記入方法**  
[ 取り組みの事実 ]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
[ 取り組みを期待したい項目 ]  
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。  
[ 取り組みを期待したい内容 ]  
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 調査報告概要表

評価確定日 平成 21年5月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1571100344
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	みつけケアセンターそよ風
所在地 (電話番号)	新潟県見附市本町4丁目2番25号 (電話) 0258-61-3090
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年3月9日

## 【情報提供票より】(20年9月30日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17年 5月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	14.8 人

## (2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(2年償却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400円 (1ヶ月 42,000円)			

## (4)利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	6 名	要介護2	4 名			
要介護3	6 名	要介護4	2 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	80.3 歳	最低	64 歳	最高	89 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	星野医院、金子歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年、様々な介護福祉事業を全国展開している会社が開設した県内4つのグループホームの一つである。会社は地域に密着した活動を目指し、各事業所の連携や職員の育成体制を構築している。JR見附駅から車で10分程の市内中心地に位置し、近隣には小学校・図書館・医院等がある。大通りから少し入り、古くからの町並みとコンビニエンスストア・アパート等新しい建物が融合した静かな住宅街にある。建物は2階の2ユニットである。玄関フロアには雛人形等季節の物を飾り、クラシック調の椅子を設置し、気軽に立ち寄れる家庭的で温かな雰囲気である。会社の「共に行きる」「感動介護」という思いを、民間事業所として果たす役割を問いながら、積極的に地域に働きかけ、利用者の「自由に喜びのある生活」の為に、ともに明るく笑顔で職員が一致団結して取り組んでいる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は会議で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。指摘があった「これまでの暮らしの把握」をセンター方式等で細かく記録に残すことで情報共有するよう改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が「気づき」の機会であることを説明し、全職員が意義を理解して話し合い、自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、協力医等の参加で開催している。ホームを理解してもらい意見をもらう機会として、運営推進会議のあり方の検討を重ねている。今年度は「地域防災」をテーマに話し合い、意見をサービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口を明示し、苦情対応マニュアルに沿い、会議にて検討している。年1回利用者・家族・職員の交流会を開催したり、行事参加を呼びかけ、意見を表せる機会を設け運営に反映させている。家族の意見より、面会簿の書式を改善した例がある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に挨拶を交わし、地域の子供たちが立ち寄り等日常的に交流している。高齢化が進み行事や活動が縮小傾向であるが、ホームを開放した納涼祭・もちつき会等の行事への参加を呼びかけたり、踊りのボランティアの受け入れ等、多様な機会を取り入れ積極的に交流することに努めている。避難訓練に参加を呼びかけたり、運営推進会議で話し合い、災害時の連携体制づくりに取り組んでいる。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社理念から、今年度のホームのローガン、「気づき」をもって行動し、「思いやり」をもって沢山のひととの繋がりを大切にすることを掲げている。ユニットごとのローガン「変わらぬ故郷つばきの里」「いいじゃないかうめの丘」は職員で考え、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議等で話をしたり、目にするところに掲示し、日常的に確認し合い「気づき」、「思いやり」をもって理念の共有と実践に努めている。ユニットローガンは利用者が墨書きしている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時の説明やユニットごとに発行する新聞の送付、パンフレットの地域関連機関への設置、運営推進会議等で「地域の中で変わらない生活を送るところ」というホームの果たす役割や理念を理解してもらえよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高齢化が進み行事や活動が縮小傾向にあるが、ホームを開放した納涼祭・もちつき会等の行事への参加を呼びかけたり、踊りのボランティアの受け入れ等、多様な機会を取り入れ積極的に交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が「気づき」の機会であることを説明し、全職員が意義を理解して話し合い、自己評価を行っている。前回の評価結果は会議で話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホームを理解し意見をもらう機会として、運営推進会議のあり方の検討を重ねている。今年度は「地域防災」をテーマに話し合い、意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、市が主催するケアマネージャー会議で情報交換したり、相談に乗ってもらう等している。民間事業所として市との連携を模索しており、ともにサービスの質の向上への取り組みが今後の課題である。		運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員を通して、市内のグループホームとネットワークづくりを行う等、積極的・継続的に理解してもらえる機会を重ね、サービスの質の向上や地域の高齢者認知症ケアの拠点となる取り組みを期待したい。
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを活用し、研修や会議内の勉強会等で学ぶ機会を持ち、職員が同じ認識で虐待防止に努めている。日々の業務の中では、管理者やユニットリーダーが声かけし、見過ごされることがないように注意を払い支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、居室担当者からの手紙や、ユニット新聞、預り金の収支報告書等を送付し、暮らしぶりや健康状態、ホーム行事、職員の異動等について伝えている。緊急時や面会時・電話でもその都度個々にあわせた報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明示し、苦情対応マニュアルに沿い、リーダー会議にて検討している。年1回、交流会を開催したり、行事参加を呼びかけ意見を表せる機会を設け運営に反映させている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・リーダーと職員は意見を言い合える良好な関係ができています。毎日のミーティングや全体会議・ユニット会議等で意見を聞く機会を設け、日々の些細な事から改善し、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	支社長は異動を「出会いと別れ」の自然なこととして捉え、全職員が利用者に関われることを配慮している。代わる場合は引継ぎを徹底し、新職員の紹介を行い、利用者へのダメージを防ぐように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種のマニュアルを整備している。法人のものを事業所の実情に即し、適宜見直ししている。事務所内に掲示したり、新人オリエンテーションでの活用、勉強会や会議等で話し合い周知・徹底に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	支社内では毎年テーマに沿い、段階的・職種別の年間計画による研修を充実させている。外部研修にも積極的に参加を促し、全体会議内で伝達講習を含めた勉強会を行っている。面談を実施し、自己評価や資格取得の相談を受け個別な育成にも取り組み、職員のスキルアップとサービスの向上につなげている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内グループホームとは研修・会議等で定期的な交流の機会が設けられている。市内グループホームとはリーダー同士の交流があり、職員の相互訪問も始め、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	リーダーを中心にストレス・悩みを聞き、相談にのる良好な関係ができています。会社は年4回の親睦会を助成したり、休憩時間と休憩室を確保し、ストレス軽減に向けた環境づくりに取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族と話し合い、とくに共通の話題の情報収集に努めている。事前に見学・お茶のみをもらったり、自宅訪問や配食等より、徐々に馴染みながらサービスが受けられるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、習字、生け花、方言、生き方等、人生の先輩として常に尊敬の念で対面で関わる場面を大切に、一緒に過ごすことで学び支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会議の参加時や面会時、手紙等、事ある毎に連絡を行い、共にコミュニケーションを図る場面を設定し、思いや感動を共有して一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、その人に合わせ気持ちが出しやすいく関わりや雰囲気づくりに配慮し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族や関係者より把握し、ケアカンファレンス等で本人本位に検討している。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して入居時家族に記入を依頼したり、本人・家族・知人等関係者から総合的な情報の把握に努めている。前回の評価結果を受け、口頭のみならず記録を徹底することで、情報共有の強化に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当職員が中心となり、本人・家族の意見やアイデアを聞き、ケアカンファレンスで話し合っている。その内容をもとに、計画作成担当者がまとめ、利用者主体の計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の記録で計画の評価を行い、月1回、居室担当職員が中心となり、モニタリングやケアカンファレンスを行い、3ヶ月に1回をめやすに見直ししている。変化が生じた場合は、本人・家族・関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じ、受診の介助・外出等、多機能性を活かし臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族の希望を確認し、今までのかかりつけ医か協力医を選択してもらい、家族にも同行を依頼し定期的な受診を支援している。月2回協力医の往診があり、緊急時も連携体制ができており、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、ホームの対応できる範囲や住み替え支援について説明している。本人・家族・主治医・関係者と話し合い、全員で方針を共有し、一人ひとりに合わせホームでできる最善のケアに取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修・勉強会や会議にて学び、一人ひとりに合わせた誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。ミーティングで名前を出すことを避けたり、記録は事務所に保管し記入は目に触れない場所で行う等工夫している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいか表出しやすいよう、生活暦・趣味等から提案し、一人ひとりの思いやペースを尊重した、外出・食事・入浴・買い物等の支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら、一連の食事づくりや片付けを一緒に行っている。音楽を流すことで、会話が増えおしゃべりしたり、「美食の日」として各地の名物料理を作ったり、笹団子・おはぎ等の季節のおやつ作りは楽しみなものとなっている。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導にて、気持ちよく排泄できるよう支援している。生活のリズムを整えることで、排泄の失敗やおむつの使用を減らし、自立した排泄を支援している。便秘予防にヨーグルトの摂取を勧めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、ほぼ毎日の入浴を支援している。入浴剤を使用したり、夫婦で入浴する等楽しめるよう工夫している。拒否の方には無理強いせず、声かけや入浴法を変えて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦や趣味から、料理・大工・畑仕事等、力を活かした役割を支援している。利用者の作品を発表するための、ホームの文化祭を開催したり、行事を年間計画で行う等、役割を發揮したり、楽しみや気晴らしの場面づくりを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、散歩や買い物、ドライブ、美容院に出かける等、日常的に外出している。海や温泉等、普段行けないところへの外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	支社長は「拘束は介護放棄であり、あってはならない」と普段より話している。マニュアルを活用し、会議や勉強会で正しく理解し、日々職員間で声かけて拘束をしないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員で弊害を理解し、ユニット入り口に鈴をつけ、玄関にセンサーを設置する等工夫し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。エレベータで1・2階を行き来できたり、玄関と廊下を区切るドアをカーテンに替える等、自由な暮らしを支援している。無断外出の方にはマニュアルにより対応の徹底に努めている。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を記録し、速やかに具体的防止策を検討し周知している。毎月の会議にて評価を行い、マニュアルから個別に対応策をまとめ、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回普通救命講習を殆どの職員が受けている。緊急対応マニュアルを事務所に設置・掲示して周知徹底を図り、確実かつ適切な行動がとれるようにしている。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署管理の下、昼夜想定避難訓練を、地域にも声かけし実施している。地域の防災訓練に利用者と一緒に参加したり、運営推進会議で消防署員から指導を受ける等、自治会を通じ、更に地域との連携体制を強化していく予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本社栄養士が栄養バランス・季節を配慮した献立をもとに、好みや状態、行事に合わせ適宜変更している。食事や水分摂取量をチェックし、一人ひとりの食事形態を調整したり栄養補給を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関フロアには雛人形が飾られ、金魚の水槽があったり、各フロアや廊下には手作りの作品・季節の装飾や鉢植え・プランターが置かれ季節を感じる温かな雰囲気である。ソファやこたつで思い思いに過ごしたり、あちこちに落ち着いたクラシック調の椅子を設置し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、使い慣れたものや家族の写真、テレビ等を持参したり、作成した作品を飾り、安心して居心地よく過ごせる本人らしい居室づくりを支援している。		